

所属・資格 総合文化研究室・准教授

申請者氏名 土屋 弥生

研究課題		教育活動における V.v.ヴァイツゼカーの医学的人間学の意義
報告の概要	研究目的 および 研究概要	教育活動の出発点は、「教育的現実の理解」(ダンナー)である。それは教育活動におけるさまざまな出来事の意味と価値を把握することに他ならない(ポイテンディク)。このような教育活動の理解は、医学における医者と患者の治療関係にも通ずるところがある。『医学的人間学』の始祖である V.v.ヴァイツゼカーは、それまでの自然科学主義的な医学に警笛を鳴らし、医者との「出会い」を起点としたゲシュタルトクライスの治療関係を提唱した。本研究では、V.v.ヴァイツゼカーの医学的人間学における「存在的」、「パトスの」、「反論理」、「主体」、「ゲシュタルトクライス」、「危機(クリーゼ)」、「出会い」といった主要概念を整理し、これらの思想の教育活動における意義を検討するものである。
	研究の結果	本研究では、V.v.ヴァイツゼカーの主著である『ゲシュタルトクライス』、『生命と主体』などから、「根拠関係」、「主体」、「パトスの」、「出会い」、「反論理性」、「移入的経験」、「ゲシュタルトクライス」といった主要概念を抽出し、精神病理学者の木村敏の解釈を参考に検討した。その結果、それらの解釈から教育実践と V.v.ヴァイツゼカーの重要な関連性を見出すことができた。
	研究の考察・反省	今後の課題として、生徒指導の基盤となる生徒理解における V.v.ヴァイツゼカーの意味でのパトス、パトスの実存としての生徒理解のための方法論に関する考察の必要性が前景に立てられた。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	研究発表 なし	※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。 研究発表 なし 研究成果物として、次年度「V.v.ヴァイツゼカーの思想と教育実践—生徒指導のために—」を投稿予定
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者		